けあ・こみニュース

2025 年 4 月
No.17

発　行　元：日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会
広報委員会：荒井隆浩・井堂愛子・中島鈴美
保手希一郎・山田幸恵
ホームページ：http://caring-jp.com

広島大会『ともに歩み、あすを拓く』

大会長あいさつ　岡本隆嗣（西広島リハビリテーション病院理事長・病院長）

このたび、第 14 回日本脳損傷ケアリング･コミュニティ学会を 2025 年 6 月 21 日（土）～ 22 日（日）の 2 日間、広島にて開催する運びとなりました。会場は、広島駅から JR 山陽本線（呉方面行き）で 3 駅（約 10 分）先の海田市駅から徒歩 5 分ほどの場所にある「安芸区区民文化センター」です。

私はこれまで、突然の病気やケガによって、身体や頭が思うように動かなくなり、なかなか前向きな気持ちを持てなくなった多くの方々を診てきました。意欲がわかず、目標も見いだせない方にどのように接するべきか、思い悩む日々が続きました。

そんな折、学会代表理事長谷川幹さんから「本人がその気になるまで、そばでじっくり待つんだよ。失語症でコミュニケーションが難しく、家でふさぎ込んでいたこの患者さんは、人前に出られるようになるまで 10 年かかったんだ」と教えてもらいました。私にとっては、まさに目から鱗が落ちるような助言でした。

現在私は、外来・通所・訪問などの生活期リハビリテーションの担当医としての診療や、回復期リハビリテーション病棟の統括も行っています。その中で、目の前のことだけでなく、その何年も先を見据えることを意識するようになりました。私たち医療者は、つい主体性を引き出そう、目標を持って活動してもらおうと、自分たちの考え方やペースに患者さんを乗せようとしてしまいます。しかし、それは我々が主導するものではありません。身体や脳、心の回復にはそれぞれに必要な時間があります。家族、友人、地域コミュニティの人々、ピアサポーターなどと一緒に協力しながら、本人が再び前を向いて歩むことを支援していく、そういう姿勢が大事なのではないでしょうか。我々も毎日勉強させてもらっています。

こうした背景から、本学会のテーマを「ともに歩み、あすを拓く」としました。“あすを拓く”は当法人の理念であるチャレンジ精神を象徴した言葉です。ご参加頂いた皆様とともに、より良い地域生活の実現を目指して努力したいと思います。皆様のご参加を、スタッフ一同、心よりお待ちしております。

実行委員長あいさつ　上森奨悟（西広島リハビリテーション病院リハビリ部副部長）

今回、第 14 回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会広島全国大会の実行委員長を務めさせていただきます上森奨悟と申します。本学会のテーマ「ともに歩み、あすを拓く」に相応しい学びとチャレンジ精神が目に見える形の大会となるよう、実行委員一同、日々準備を進めています。

具体的なプログラム内容としましては、取り組んできた活動（失語症者の支援、地域住民主体の通いの場など）を振り返りながら、これまで一緒に活動してきた当事者の方々とのシンポジウムやポスター形式での発表を予定しております。

また当法人は回復期病棟を中心に、介護老人保健施設や退院後の生活を支える訪問リハビリ・通所リハビリを提供し、生活習慣病や運動器疾患の予防・改善・介護予防を目的とした健康開発センターを併設施設として有しております。そのため、ご病気になられる前から法人と長いお付き合いをしていただいている方々も多くいらっしゃいます。その方々がご病気になられた後も地域で生活をし、それまで取り組んでおられた趣味活動や新しく始められた活動をワークショップという形で披露していただく予定です。

皆様とともに実りのある学会となるよう準備を進めてまいりますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。6 月に広島でお会いしましょう。

絵手紙：品川　裕永様

織物：日村　美幸様

木工：岩谷　正人様

特集 『４月２５日　失語症の日』

『失語症者向け意思疎通支援者利用のススメ』

安保 直子（世田谷区保健センター専門相談課　言語聴覚士）

失語症者向け意思疎通支援者派遣事業をご存じですか？平成 30 年度に障害者総合支援法の中の地域生活支援事業に位置付けられた施策で、意思疎通に困難を抱える失語症のある人の様々なコミュニケーション場面で支援を行う人（意思疎通支援者）を派遣できるというものです。例えば、病院受診、各種窓口などでの手続き、買い物、余暇活動などの場面で、第三者とのやりとりをサポートします。

意思疎通支援者の養成（国の定めた 40 時間の講習）は、各都道府県言語聴覚士会と連携して実施され、現在 9 割以上の都道府県で開始されています。一方、派遣については市区町村事業になっており、実施している自治体はまだ限られている状況です。

支援場面

東京 23 区でも実施区はまだ半数に達していない状況ですが、世田谷区では令和 2 年 8 月より派遣事業を開始し、現在までに 150 件余りの派遣を行なっています。当区では、現在外出場面での意思疎通に限って派遣を行っていますが、その半数以上が受診時の支援依頼でした。「諦めていたことを初めて伝えられた」「難しい話がよく理解できた」「紙に要点を書いてくれるので、後から見返すことができて助かる」といった感想が多数聞かれています。また、意思疎通支援者の支援を見て「医師がゆっくり話してくれるようになった」「家族がいると家族に向かって話されるが、自分を見て話してくれた」など相手の対応が変わるという嬉しい効果もありました。それにより一人で受診できるようになった方もいます。

失語症のため家族に頼らざるを得なくなったことを、派遣を利用することで家族の都合に合わせることなく自分で主体的に行動できるようになるのです。そのためには、ご本人やご家族が、第三者の支援を利用するという意識に変えていくことが必要です。利用した方々が前向きになっていくことを見るにつけ、早く多くの自治体でこの事業が始まり、利用が進むことを願ってやみません。

『埼玉県若い失語症者のつどい＆ミドル失語症者の会と「one step」の紹介』

石田 和男

私が参加している会は、「埼玉県若い失語症者のつどい＆ミドル失語症者の会」と「ONE STEP」の二つです。両方とも、参加方法が「会場」と「オンライン」とあり「ハイブリット」な会になっています。

「埼玉県若い」は年間 5 回のハイブリットによる本番が、当事者 25 名前後、ST 4 名前後、意志疎通支援者 2 名前後、家族数名で、6 回のオンラインによる打ち合わせが ST2 名当事者 4 ～ 7 名です。場所は武蔵浦和コミュニティセンターまたは、With You さいたまです。ほとんどの方が埼玉県ですが、東京都や千葉県、群馬県などいろいろなところから参加しています。

全体の流れ

開始～自己紹介まで：広い部屋
↓
自己紹介：2部屋に分かれる
↓
休憩
↓
発表　：２部屋に分かれたまま実施
↓
事務連絡～終了まで：広い部屋に再集合

つどいの会の 1 回目は 2002 年 10 月 12 日(土)に、久喜市のオリーブデイサービスの場所を借りてやりました。2025 年 3 月 24 日（日）に第 100 回を迎えます。

打ち合わせにはパワーポイントを使い、発言や決まったことを、議事録として残しておきます。一般的な議事録とは違い、発言を要約したもので、ST が書いています。オンラインによる打ち合わせには「話す」「聞く」ことだけで、「読む」「書く」ことができません。パワーポイントによる議事録（要約）があれば、後から見ることにより失語症者には「よくわからなかったけれど、そういうことなのか」と感じられます。オンラインによる打ち合わせは、コロナあとにできて、発展していることです。このままで、いけるといいなと、思っています。

「ONE STEP」は毎月 1 回「オンライン」を含むハイブリット会議を当事者 6 ～ 7 名 ST1 名他で行っています。場所はウェスタ川越、参加者は埼玉県と東京都です。近況報告、そのときの「テーマ」、リハビリ等をやっています。

一昨年と去年はハイブリット会議だけではなく、1 月は「新年会」、5 月は「バス旅行」、10 月は「BBQ」がありました。「BBQ」は、それぞれが買ってきたものを持ち寄って OT や ST、家族が美味しく作ってくれます。一日中、笑っていました。

どちらにもいいところがあるので、私はその二つに参加するのです。

『若い失語症者のつどい』

両角 明子

1998 年に娘が 2 歳の時、私は脳内出血で倒れ、失語症、視野狭窄に。妊娠 7 ヶ月でしたがその頃は中絶するしかない時代でした。退院から一年経った頃、突然とても悲しくなって…お腹に赤ちゃんがいたことを急に思い出しました。娘が幼稚園に行く頃も、まだ頭の中はフワフワした状態でしたが、倒れて 5 年目頃に少し元の自分に戻った気がしました。同時にいろいろ考えて不安が大きくなってきました。

そんな時、実習に来ていた ST の学生さんからの薦めで、2003 年に初めて「東京版若い失語症者のつどい」に参加しました。若い失語症の仲間がいる！自己紹介の時は、今までのつらさと同じ仲間に出会えた安心感で涙が止まりませんでした。今では、昔の笑い話ですが…。

2008 年第 50 回、2017 年第 100 回の東京版は、特別なつどいとして、懐かしい皆様や、東京以外の方々にも参加いただきました。50 回の企画作業で PC をお借りした「パソコン工房ゆずりは」とご縁ができて、もう 10 数年そこで働いています。

若い失語症者のつどいは、全国にどんどん増えています。関西版、埼玉版、愛知版、岐阜版、京都版には飛び入りで参加しています。

失語症全国大会にも参加しています。2015 年第 30 回 in 愛知では、妊娠 3 ヶ月で倒れその後出産した女性と知り合いました。2 人で感じ合うことが多く、今でも会うお友達です！ 2016 年第 31 回 in ひょうごでは、関西と関東の若い失語症者で懇親会をして仲良くなりました。そのご縁で、その翌年の東京版つどい第 100 回に関西から大勢の方が参加してくださいました。今年は 6 月 7 日 (土) 第 36 回全国大会 in ぎふ！会長の馬渕さん、副会長の長屋さんを始め、皆さん私の大好きなお友達です。

失語症になって 26 年のおばちゃんですが、日々いろいろな方にお会いできることに感謝しています。岐阜でお会いしましょう！

ことばとこころを支える
～失語症当事者である言語聴覚士の思い～

平澤 哲哉（在宅言語聴覚士事務所）

1983 年 9 月、私は交通事故による左脳外傷で失語症となった。幸い麻痺はなく、ADL は自立していたが“ことば”が失われ、未来に厳しい制約がかかった。大学在学中であり講義や試験、レポートなど能力障害に加え、学友等との対人的喪失感も生じた。就活では何度も挫折を味わったが、発症 3 年目に ST として病院採用された。収入を得て経済的、社会的に多少落ち着けたものの，課せられ果たさねばならぬ務めに対し、穏やかではなかった。失われたことばに苦悩する日々であり〝無能さ〟と〝恥辱〟に苛まれた。病院勤務しながら、家に帰る失語症者が気になった。生活の場で不利を得ているだろうと考え、2002 年 3 月、病院を辞め、在宅訪問を始め、今年で 23 年目となった。

7 年前より、ST 不在の上野原市周辺へ訪問起点を移した。家に閉じこもった失語症者へのサポートを行ない、家族や介護士など地域の支援者に対し〝ことばを失った人〟への理解を促した。更に、上野原失語症友の会を紹介し、同病者とのつながりも勧めた。

失語症者たちが機能訓練を含め集える場として、介護保険利用の失語症デイがあるが、地域差があり、送迎も含めると山梨など人口密度の低い場所では厳しい。そこで普通のデイで展開する方法を試してみた。参加者 40 名ほどのデイの中に失語症者が 5 名ほど加わる。グループ訓練を共に楽しみ、その前後に失語症個別訓練を行なう。週に一度通所リハビリ的な満足度が得られる。

〝ことば〟だけなく〝こころ〟の問題――心的外傷を如何に緩和していくか。失語症者にとって言語機能の改善より大事なのは、自分の気持ちや存在を認めてもらえること。自分を認めてくれる人の中で、多くの時間を過ごすことで、苦しみや悲しみ、そして絶望感は自然と解消されるだろう。

自主グループ活動紹介コーナー

私たちが参加する自主グループ

大田区高次脳機能障害当事者会『楽花』【https://hbd-rakka.wixsite.com/rakka】

◎活動地域＿＊大田区（参加者は他地区からも）
◎開催場所＿＊大田区総合サポートセンター「さぽーとぴあ」
◎活動頻度＿＊毎月第一日曜日
◎活動時間＿＊ 13：00 ～ 15：00
◎参加人数＿＊ 10 ～ 20 名（フルメンバーは 25 名程度）
◎主な活動内容＿＊毎月のフリートーク、カラオケやボーリング等のイベント
◎その他紹介したいことなど＿＊山王リハの当事者会『えん』との合同イベントを不定期で開催しています。
（バーベキュー、フリーマーケット、飲み会、調理会等）

私、私たちが参加するグループの活動を広報誌で紹介しませんか！

全国様々な地域で当事者の皆さんが自主的に、または周囲の方と一緒にグループ活動を展開されています。
その仲間と一緒の活動は大きな力になっていると聞きます。
皆さんの活動を全国に紹介してみませんか。ご連絡をお待ちしています。

【紹介していただく内容の例】

◎活動地域　◎開催場所　◎活動頻度　◎活動時間　◎参加人数　◎主な活動内容
◎その他紹介したいことなど

※可能であれば、活動場面の写真などご提供ください。
※投稿、掲載グループについてのお問い合わせは学会ホームページ「お問合せ」からご連絡ください。
http://caring-jp.com

お知らせ

☆『脳卒中が拓いた私の人生～社会参加を目指した言語聴覚士の物語～』 関啓子　幻冬舎メディアコンサルティング

脳の損傷によって言語の理解・表出が困難になる「失語症」。言語聴覚士として失語症患者の支援に従事してきた著者は、脳卒中をきっかけに失語症を患う。専門家と患者、２つの顔を持つ“当事者セラピスト”が、40 年にわたる臨床経験と 15 年に及ぶ当事者生活を通して発見した新しい自分とは。
https://1drv.ms/f/s!ApmSpjjjFp8IidBJcR58HvLlJ1zuBA?e=4Dmam

☆『貧困と脳　「働かない」のではなく「働けない」』　鈴木大介　幻冬舎新書

病気で高次脳機能障害になり、どんなに頑張ってもやるべきことが思うようにできないという著者の体験と気づきから、領域を問わず脳機能障害を持つものの諸症状の苦しさ、就労上での困難、周辺者や支援職にお願いしたいポイントなどが書かれています。

＜モリトー・有明ショールーム＞ 紹介

株式会社モリトーが、この度、東京有明にショールームをオープンいたしました。
実際の使用シーンをイメージしながら、様々な介護設備を体験してみませんか？
モリトー東京有明ショールーム　　TEL:03-5531-5555/FAX:03-5531-5550
〒 135-0063 東京都江東区有明 3 丁目 5 番 7 号　TOC 有明 EAST 9F 2 号室
（ゆりかもめ：有明駅より徒歩４分　りんかい線：国際展示場駅より徒歩３分）

編集後記

本号では、主に失語症を持つ当事者向けに活動を展開している「意思疎通支援者派遣事業」や、失語症を持つ方たちの当事者会の活動について紹介して頂きました。

ご本人の医療機関診察時に、意思疎通支援者が同行し診察を受ける、当事者会へ参加して同じ様な経験をした方達と知り合う、どちらも「今まで伝えたかった事を伝えられた」喜びに溢れています。

同時に、このような活動がまだ十分に知られていないという課題も浮かび上がります。「けあ・こみニュース」は今後もこのような活動をお知らせしていきたいと思います。

山田　幸恵